

た次第である。

最後に文献の拜借を賜った浪速博物學會の八木沼健夫氏に謹んで感謝の意を表する。(昭和15年5月12日稿)

.....

モズの早贅になつた蜘蛛に就いて

加 藤 正 世

(東京市板橋區 石神井公園)

モズと云ふ小禽は秋から春にかけて里に現はれ、色々な小動物を木の枝等に刺して行くことはよく知られて居る習性であつて、昔から早贅或は草莖の名で親しまれて居るものである。この事に就いては穀山徳太郎氏が昨年12月號の昆蟲界に67頁に亘る論文を發表されて居るから是非参考とせられ度い。

筆者は石神井風致地區を中心として産する有ゆる物(生物以外の資料も含む⁾を極力集めて調査中であるが、早贅もその一部にしてある。その様な關係で出来る限り發見に努力して居るが、蜘蛛の犠牲者は今年初めて發見することが出来たので、早贅としては未記録でもあるので、記録を兼ねて紹介することとした。Data は寫眞のラベルに見られる通りであるから略して置く。蜘蛛は成熟したスズキドクグモ *Lycosa* sp. ♀ の♀で、背甲の左側に小枝が刺つて居る。第2歩脚は脱落したか或はモズの胃の腑に納まつたかして附いて居ない。發見當時は腹部の状態から見て犠牲になつてから2日目位らしく、未だ生々して居るので、早速腹部を切り離して乾燥標本の方法を講じて此處に示した様な標本に製作した。従つて完全な早贅標本に出来て居る。

¶ *Lycosa suzukii* Kishida として知られて居るが原記載が發表されて居ないので sp. として置く。



蜘蛛の早贄
の記録は決して多くはない。寧ろ珍しいものではないからうかと考へられる。私自身の経験からしても、此の標本が初めてのものであるし、記録を見ても餘り

見當らない。トカゲや蛙の如きものは早贄の代表者の様に多く發見されるものであるが、地上に生活して居る個體數から云へば蜘蛛の方が遙かに多く、モズの眼にもつき易い筈である。然るに早贄が稀であると云ふことは、何分にも形が小さいから木の枝に刺さないで食道を通過させる結果ではないだらうか。

早贄の記録から蜘蛛に関するものを拾つて見ると、次の様なものがある。種名の明かなるもののみを掲ぐ。

- | | |
|--|---------------|
| 1. <i>Atypus karschi</i> Doenitz | チ グ モ |
| 2. <i>Agelena limbata</i> Thorell | ク サ グ モ |
| 3. <i>Dolomedes rufivireus</i> L. Koch | イワウイロハシソグモ |
| 4. <i>Lycosa ruber</i> Kishida | アカドクグモ |

1, 2, 3 は榎山氏の論文〔昆蟲界 vol. vii, no. 70, p. 40 (1939)〕に掲載されたもの、4は故深澤治男氏〔Acta Arachnologica vol. ii, p. 72 (1937)〕に寫眞と共に記録された。是等に今回の私の報告を合して5種類が明かになつた

わけである。

若しも斯かる早贗を發見された方があつたら是非御報告或は標本の御寄贈に
與り度い。

ユカタヤマシログモの兩性交際と卵囊

小 松 敏 宏

(長野縣諏訪郡上諏訪町南衣之渡)

Komatsu, Toshihiro — On the habit of *Scytodes thoracica*

—— Mating and egg-sac keeping ——

Scytodes thoracica Latreille は廣き分布をもちながら、その隱遁好きな生活の故に長らく奇妙な習性が知られずに過されて來たものと思はれる。筆者は1938年以降再び表題の蜘蛛に接する機會を得たのを欣ぶものである。以下その兩性交際と卵囊につき記録したいと思ふ。尙ほ始に當り貴重な文獻の御貸與を得た岸田久吉先生に深謝の意を表す。

1. 兩性交際

♂の出現時期は貧弱な採集記録（於長野縣）に依ると、最も早きは1931年6月5日；最も遅きは1939年9月16日であるから、随分長期間にわたつてゐる事を示してゐる。♂の觸肢は相當特色があるから兩性交際も面白からうと考へてゐたがそれ程ではなかつた。1939年8月28日硝子瓶内に放してあつた♀に♂を導入してみた。♂は何等の躊躇もなく♀の正面より進み、次第に潜入して第1圖の如き體型をもつて交互に觸肢を宛合ひ、約一分にして別れた。

2. 卵 囊